



IBM Software Group

JaSST'09 Tokyo

**B3 : もしかすると、もしかする？
モデル駆動テストから考える開発パラダイムの変化**

日本アイ・ビー・エム ラショナル事業部
テレロジック事業開発技術部・モデリンググループマネージャ
鈴木尚志

Rational. software

→ Go to IBM

AGENDA

- 障害の経済学
 - 開発プロセスを改善しよう - MDDについて
 - ▶ MDDがROIに与える影響
 - MDDとテストの関係
 - テストプロセスを改善しよう - MDTについて
 - Validation and Verification - 構造ベーステストとの連携
 - IBMのトータルテストソリューションについて
- **この数年で、組み込みソフトウェア業界ではMDD（モデル駆動開発）による実製品の開発が進み、MDDがROIの向上に大きく寄与することが分かってきました。そして、モデル駆動テスト（MDT）が、この向上に大きく影響しているのです。なぜ、MDTがよりROI向上に貢献するのでしょうか？そもそも、モデルのテストとコードのテストは何が違うのでしょうか？本セッションでは、MDTについて説明、デモを行います。MDD,MDTを一気に体験し、開発パラダイムの変化を体感してください。**

組込みSW開発で何が起こっているのか？

- 開発メンバーを追加した (37%) またはモジュールの書き換えを行った (74.9%)
- 機能削減を行った(56%)、又はプロジェクトを中止 (18%)
- 出荷遅れが発生した (72.8%)



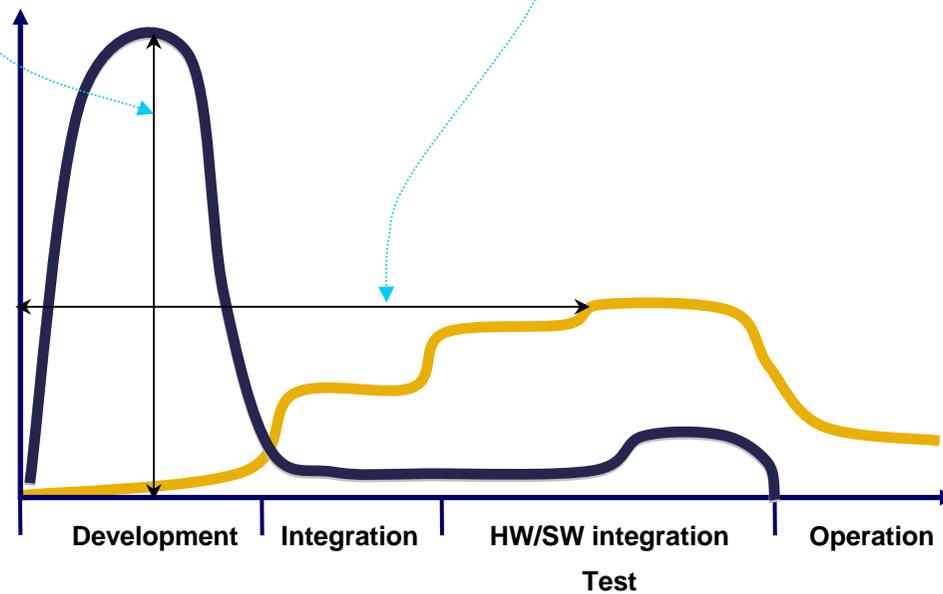
Source: *Embedded Market Forecasters*

障害の経済学

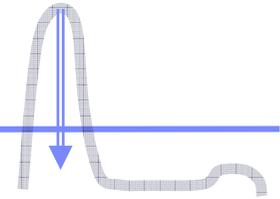
あまりに多くの欠陥が開発初期に作りこまれている!

欠陥が発見された時点では遅すぎる!

■ 作りこまれた障害数
■ 発見障害数



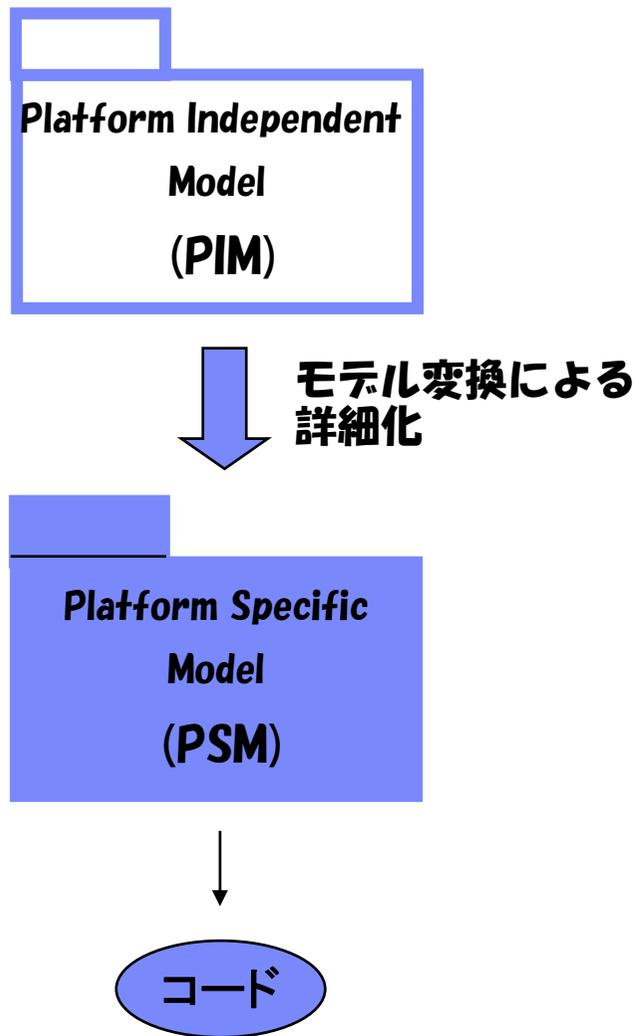
“あまりに多くの欠陥が作りこまれている”



開発プロセスを改善しよう!

- 明確で、追跡可能で、検証可能な要求
- よいアーキテクチャ設計
- 効果的なコミュニケーション
- 自動文書化
- グラフィカルな設計レビュー
- 進化的で、反復的なプロトタイプ
- 実行可能な設計
- 効果的なデバッグ/テストツール

MDAとモデル駆動開発



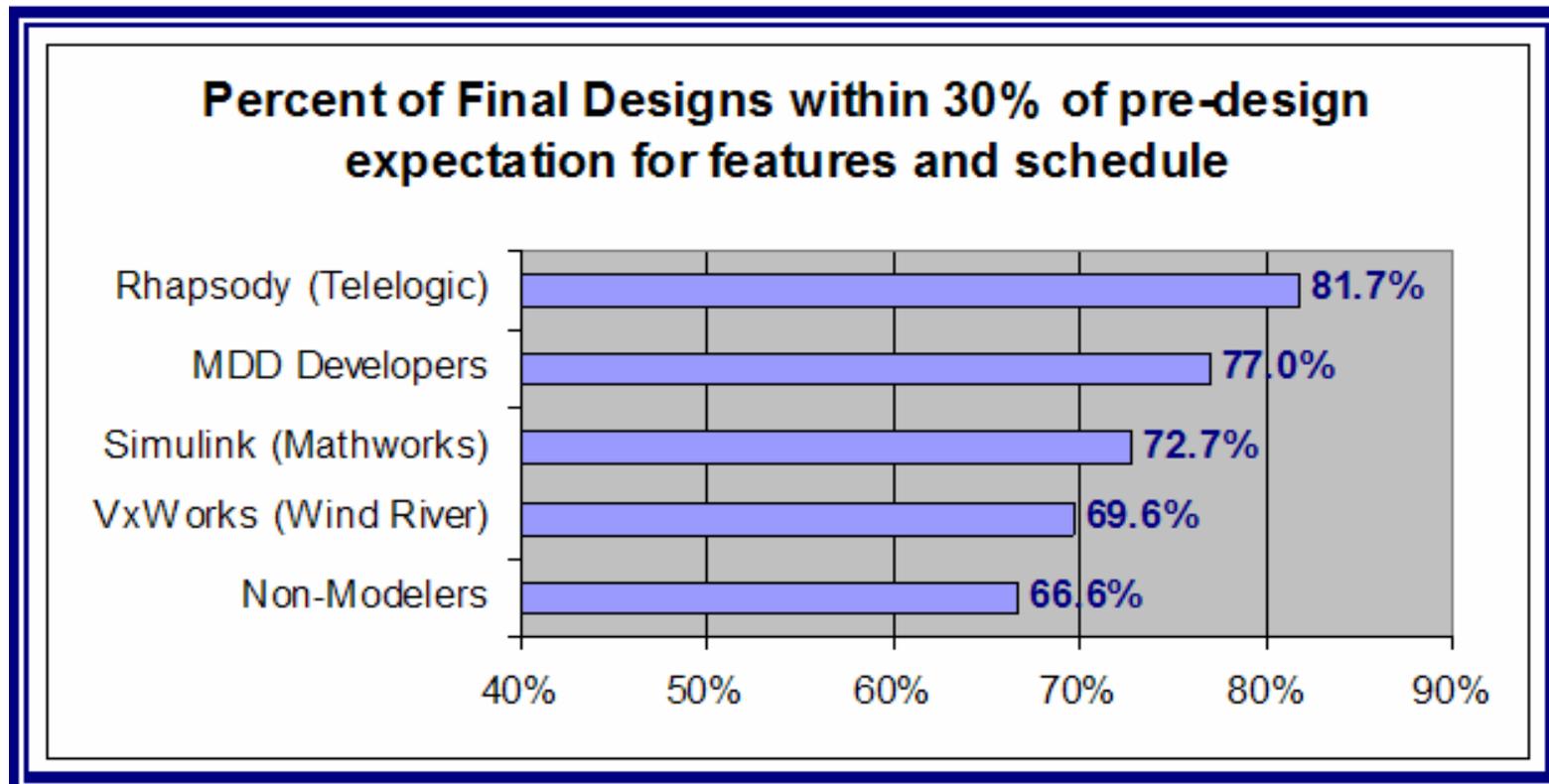
Telelogic® Rhapsody®

最新技術の自動設計機能がベースの組み込み開発環境



要求分析からテストまでソフトウェア開発の全工程をサポートするツール

MDDの優位性



¹from *Embedded Market Forecasters 2006 Survey Results*

***“What Do You Do When the Horse You’re Riding Drops Dead?:
Why Model Driven Design is Emerging as a Preferred Best Practice”***

レポート: MDDがROIに与える影響調査

- 2008に行われた通信機器開発の455人(プロジェクト人数は12-14人)からの調査
- 様々なコストについて計測
 - 正しい納期 – 技術コストの節約
 - 期待どおりのパフォーマンス、機能、要件と開発期間
 - 開発経費のコントロール
 - SW・システムズエンジニア・HW・テストエンジニアのコスト
 - 納期遅れ/キャンセルのコスト
 - コンポーネントの選択
 - ツールの選択
 - テスト手法の選択
 - 市場機会逸失のコスト
 - フィールドサポートのコスト

Source: Embedded Market Forecasters

レポート: MDD-Non MDDの開発コスト

Time to Marketの向上

開発直接コスト	Non MDD	MDD	MDDによる向上
アプリケーションのコスト	\$1,589,200	\$1,165,600	36.3%
サポートスタッフのコスト	\$1,607,180	\$1,318,350	21.9%
開発直接コストの平均	\$3,196,380	\$2,483,950	28.7%
キャンセルコストの平均	\$138,887	\$70,396	97.3%
期限遅れコストの平均	\$230,690	\$93,703	146.2%
全ソフトウェア開発コスト	\$3565947	\$2648049	31.8%

開発者コスト \$10,000/Month、サポートスタッフコスト \$8,500/Monthで試算

機能落としが少ない

外因性コスト	Non MDD	MDD	MDDによる向上
パフォーマンス	60.0%	73.3%	22.2%
システム機能	55.0%	66.7%	21.3%
基本要件とスケジュール	65.0%	66.7%	2.6%

Source: Embedded Market Forecasters



レポート: 結論

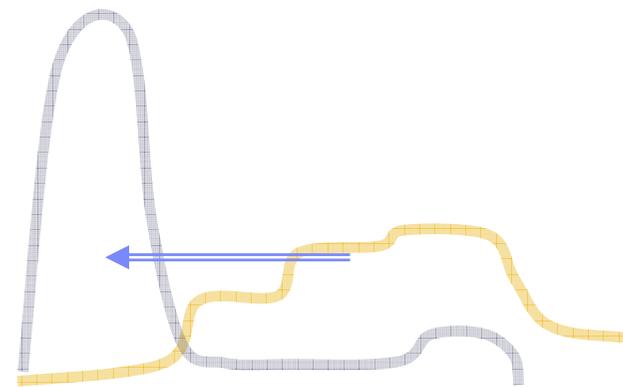
- MDDを用いた開発は、開発コストを下げる。
- また、MDDは、Time-to-Marketの短縮、キャンセルの減少、納期遅れの減少、よりよい設計成果物などといった重要な成果を上げることが明らかになった
- そして、実現には、UML Drawing toolでは不十分。なぜなら…
 - ▶ 設計シミュレーションが実行できないので初期の設計妥当性の検証が不能
 - ▶ コードの大部分を手書きし、また、コードとモデルとの関係が疎になるため、プログラミングエラーを減少させることができない
 - ▶ テストを手作業で記述するため、モデルからテストを生成するのに比べ、テスト時間を減少できない。
 - ▶ 要求の追跡がモデルまでにとどまり、コードや、要求の妥当性を検証すべきテストまで届かないため、要求の追跡可能性が弱くなる。
 - ▶ Autosar, DoDAF, Net Centric Operations, Telecom Handsets, Medical FDA certification supportのような業界独自のソリューションサポートがない(極めて限定的)
 - ▶ 組込みOSとのリンクがなく、ターゲット上での検証が不可能

Source: Embedded Market Forecasters

“欠陥が発見された時点では遅すぎる”

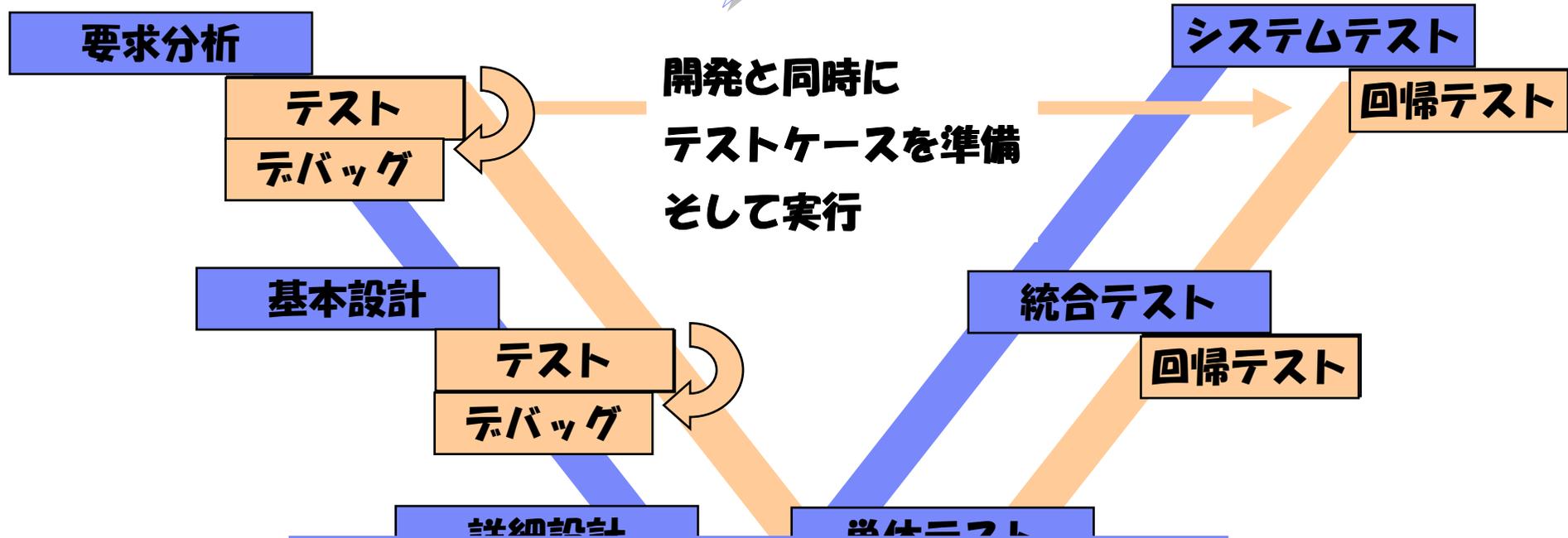
テストプロセスを改善しよう！

- Test Early; Test Often!
- 設計を実行可能としよう …… 実行しなくてはテストはできない!
- 自動化; 自動化; そして自動化!



W字モデル - MDT

実行可能であるから
こそ可能



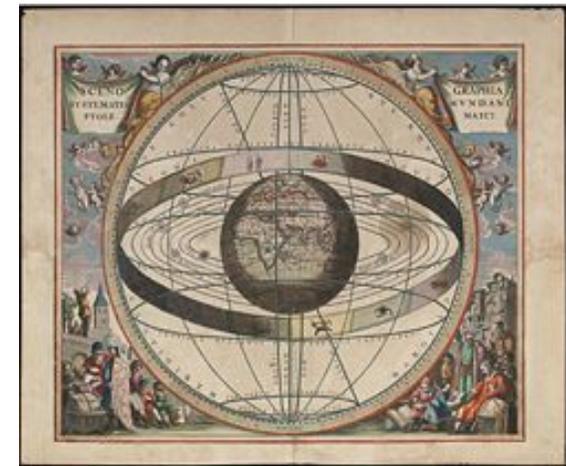
システムとテストの開発初期の統合
ミスをシステム開発初期から抽出可能に
開発時間とコストを短縮



モデル駆動テスト

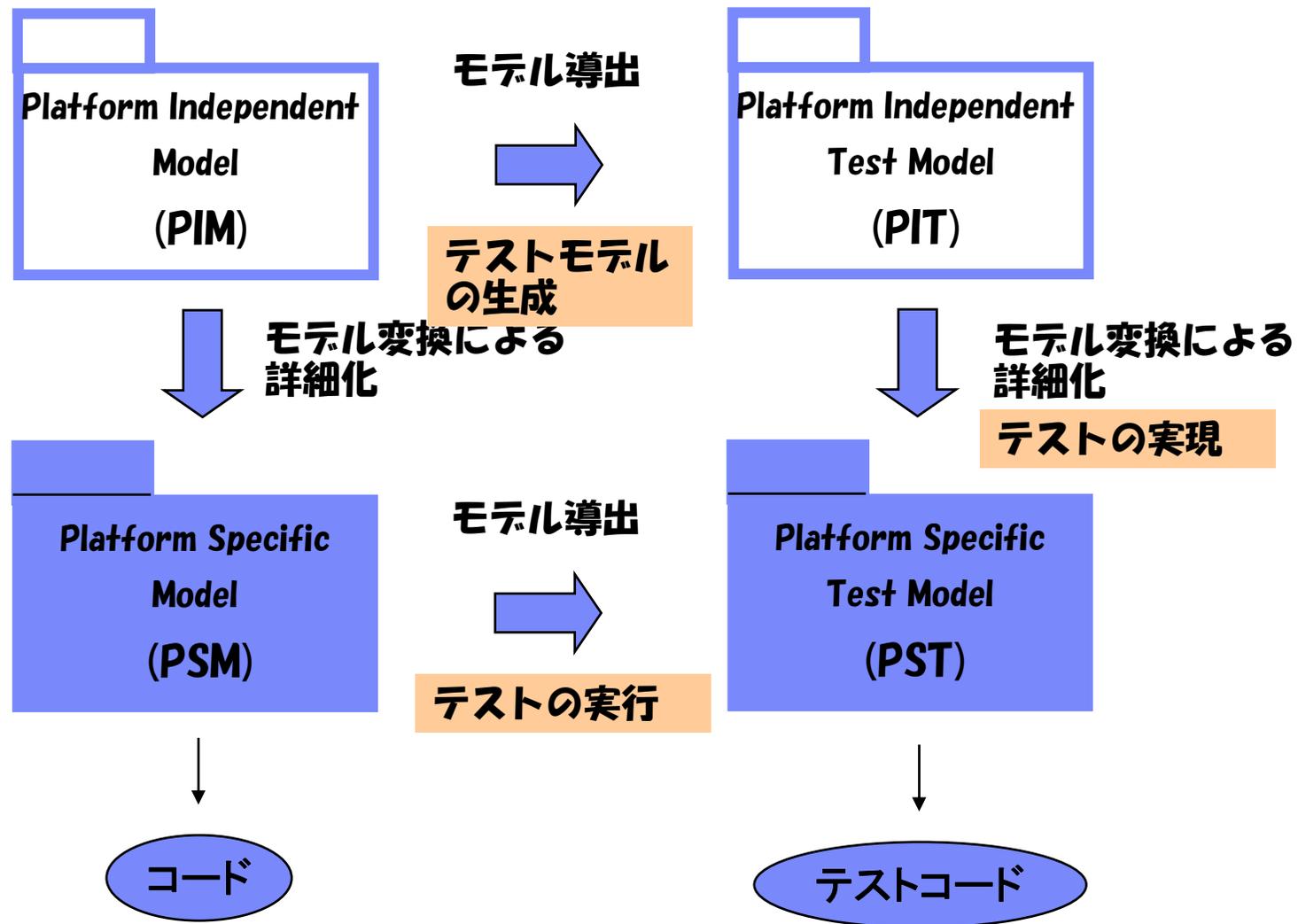
- モデル駆動テストとはテスト対象システム(SUT)の性質を記述したモデルから全部または一部のテストケースが生成されるソフトウェアテスト
- テストのモデルとは
 - ▶ テストのツクリ — 構造のモデル化
 - ▶ テストのカラクリ — 動作のモデル化
 - ▶ テストに使うデータ — 入出力のモデル化
 - ▶ テストの結果 — 成功/失敗のモデル化などなど

「テストの」ツクリやカラクリに関するわかりやすい記述



MDAとモデル駆動テスト

モデルとして表現可能なものはテストケースの導出も可能



UML2.0 Testing Profile(U2TP)

- テストの内容やテスト結果をUMLにて記述するために定義されたUML Profile
- UMLテストングプロファイルは、テストシステムの成果物を設計、ビジュアル化、仕様化、分析、構築、ドキュメント化するための言語を定義するテストモデル言語の1つ。
- テストの成果物を扱う、システムとテストの成果物を一緒に扱うなどの使い方がある
- UMLテストングプロファイルは、テストコンポーネント、判定、デフォルトなどのようなテスト特有の概念でUMLを拡張している。
- UMLのメタモデルをベースとし、UMLの文法を再利用
- UMLテストングプロファイルは、UML 2.0仕様をベース

U2TPのグループの概要

Test Architecture

テスト対象、テストの構造、
テストの構成、実行、制御など
規定するメタクラスが含まれる

SUT (System Under Test),
test components,
test context,
test configuration,
arbiter, **scheduler**
など

Test Data

保存やコミュニケーションのための
テストデータのメタ概念を保持する

Wildcards, **data pools**, **data selectors**,
coding rulesなど

Test Behavior

テストの動的側面に関する
概念が含まれる

test objective,
test case,
defaults,
verdict validation
action
conceptsなど

Time

テストのふるまいを制御したり、
制約したりするような
時間に関する概念

Timer,
timezoneなど



ソフトウェアテストのための2つの戦略

- フィーチャ駆動テスト
 - 別名 要求ベーステスト
 - ▶ 「要求」は、準備されていないことも多い。
 - ▶ 要求が準備されていても、それはテスト可能なフィーチャまでブレークダウンされていない
 - ▶ 「小さな」フィーチャは開発者によってテストされ、システム全般にわたるフィーチャはテストによりテストされる。
 - 構造ベーステスト
 - 別名 プログラムベーステスト

“テストはバグの存在を示すことができるが、それが無いことは決して示せない！”

Edsger Dijkstra



設計の正しさをチェックする構造ベーステスト

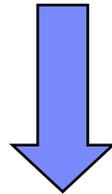
- ユニットテストのために用いられることが多い
 - ホワイトボックステスト
 - プログラムの制御フローやデータフローのような、コード内部の知見を用いたプログラムの内部構造の分析をもとにしたテスト
- 極めて普通で、多くのツールによってサポートされている
- 以下を含むことが多い
 - コードカバレッジ分析
 - 自動化(テストベンチの作成、レポートの生成など)
 - ランタイムトレース、パフォーマンスとメモリプロファイリング、複雑度分析
- しかし、「この設計は要求を満たすのか？」
 - コーヒーメーカーはコーヒーを作るのか？MP3プレーヤーは音楽を演奏するのか？

妥当な設計をチェックするフィーチャ駆動テスト

- 統合テストやサブシステム/システムテストで用いられることが多い
 - グレイ/ブラックボックステスト
- テストは、検証されることが必要なフィーチャによって駆動される
 - システム外部から観察可能なふるまいにフォーカスすることが多い
- 以下を含むことが多い
 - モデルカバレッジ分析(グレイボックステスト)
 - HIL、SILテスト環境上で実行
 - 自動化
- しかし「この設計は、良い設計か？」
 - 全てのボタンを一緒に押したら、クラッシュしない？
 - デッドコードはない？
 - 全てのコードは一度は実行されたことがある？最初に実行するのがお客様だったりしないか？

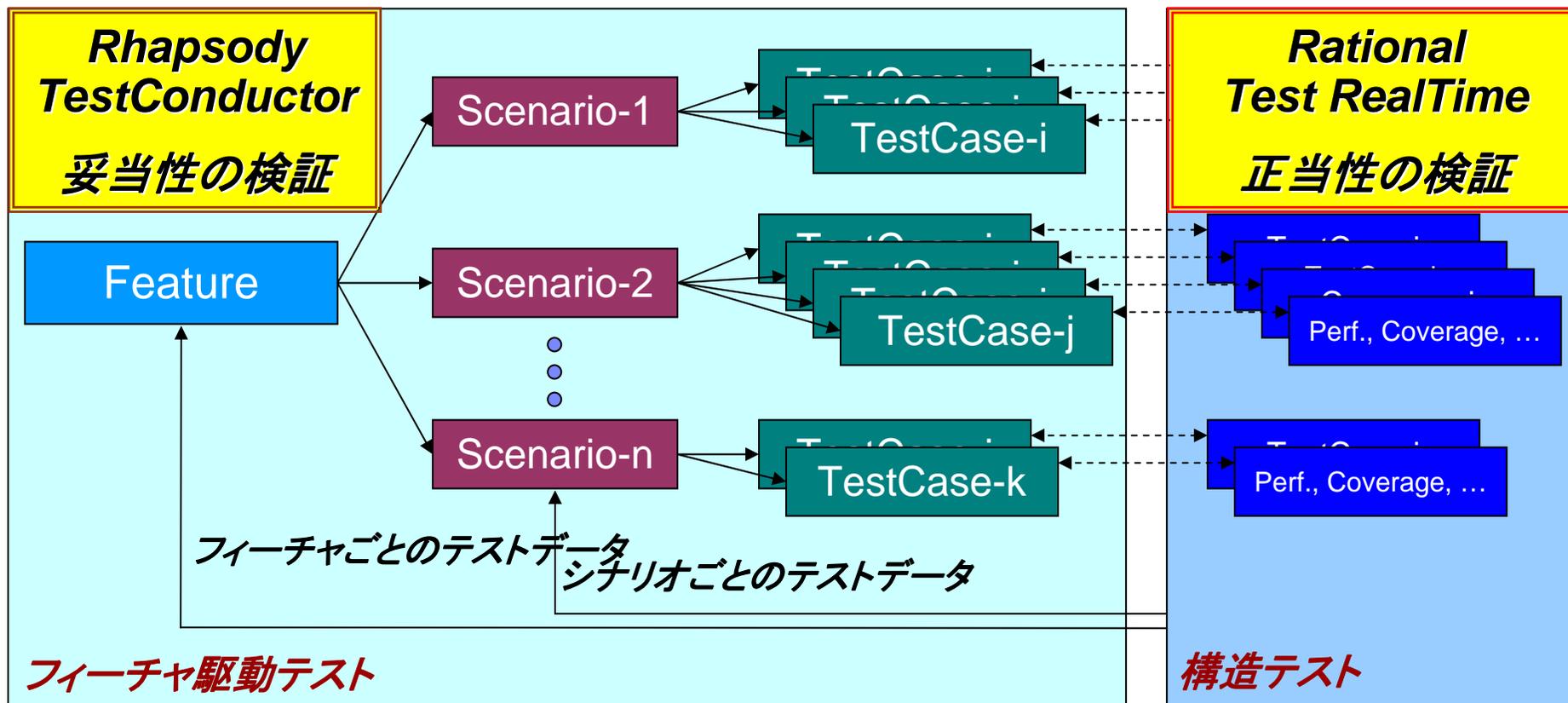
Validation and Verification (妥当性検証と正当性検証)

- フィーチャ駆動テスト - 設計妥当性の検証 (Design Validation) を目的
 - 正しいフィーチャを開発しただろうか？
- 構造ベーステスト - 設計正当性の検証 (Design Verification) を目的
 - そのフィーチャを正しく開発しただろうか？



- 妥当性と正当性の検証によって、次の問いに答えることができる
 - 本当に「正しいフィーチャ」を正しく開発しました/していますか？
- 上記のフレーズは、通常一般的な「製品」というコンテキストで語られる。しかしテストは本来フィーチャが判明すると同時にできるだけ早く、製品化を待つことなく行われるべき。

IBMの包括的テストソリューション



- テストデータは、パフォーマンスプロファイル、コードカバレッジ、実行時複雑度のようなテストケース実行に関連付けられたランタイム情報を含まない

Telelogic® Rhapsody®

最新技術の自動設計機能がベースの組み込み開発環境



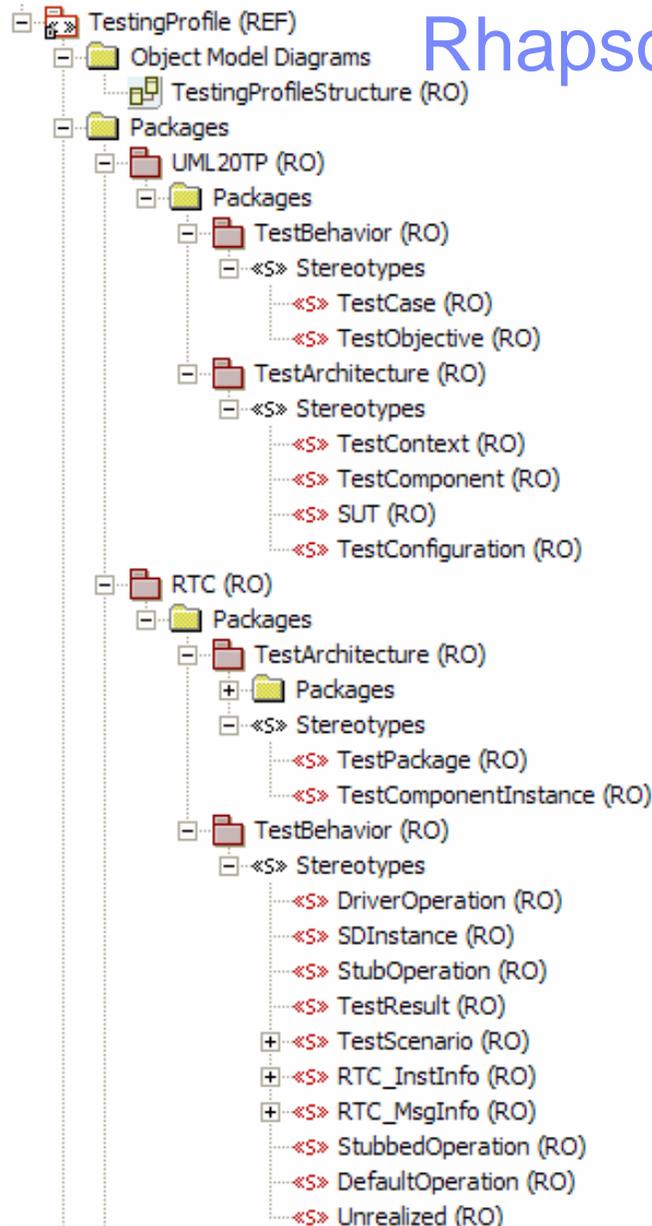
要求分析からテストまでソフトウェア開発の全工程をサポートするツール



Test Conductor

- Test Conductorは、スケジューラと調停の双方の役目を果たす。選択したSUTのために、必要とするテストコンポーネントを加えて、テスト設定とテストコンテキストを自動的に作成することが可能。
- 1つのテストケースで、あるいは、テストケースの集合でスケジューリング/実行し、それぞれのテストログと判定結果を生成可能
- テストケースは、シーケンス図上のメッセージや、手書きのコードや判定マクロのなどで、刺激と観察として定義
- 結果分析には、ワイルドカード(Tolerance)を使用可能。
- 決定されたテストケースを、異なったテスト実行で再利用可能
- テストケースは、テスト目的からテスト計画の要求までトレース可能

Rhapsody テスティングプロファイル



■ Rhapsody UML テスティングプロファイル

- ▶ UML テスティングプロファイルをベース
- ▶ Rhapsody でモデルテストの成果物に適用することができる新しい用語とステレオタイプを含む
- ▶ UML テスティングプロファイルで定義された要素のいくつかは、Rhapsody テストプロファイルにはありません。
- ▶ UML テスティングプロファイルにはない補助的な要素も含まれます。たとえば、UML テスティングプロファイルによって指定されないテスト活動のために使われる付加的な要素はその1つです。

設計とテストプロセスの統合

- 共通のブラウザ
- テストケースにリンクされた要求 Requirements linked to test cases
- 設計とテスト成果物の容易なナビゲーション;
- 設計とテストは常に同期

The screenshot displays the Rational Rhapsody environment with three main panels:

- Design Artifacts:** A tree view showing the project structure, including packages like CashRegisterPkg and various classes and interfaces.
- Test Artifacts:** A tree view showing test-related elements such as TestPackages, TestComponents, and TestCases. A specific test case is selected, showing its details and associated test scenarios.
- Test Context Result:** A window displaying test execution reports, including environment information and a table of test results.

Orange arrows indicate the flow of information and navigation between these panels, showing how design artifacts are linked to test cases and how test results are reported.

Test Context Result

Test Execution Reports

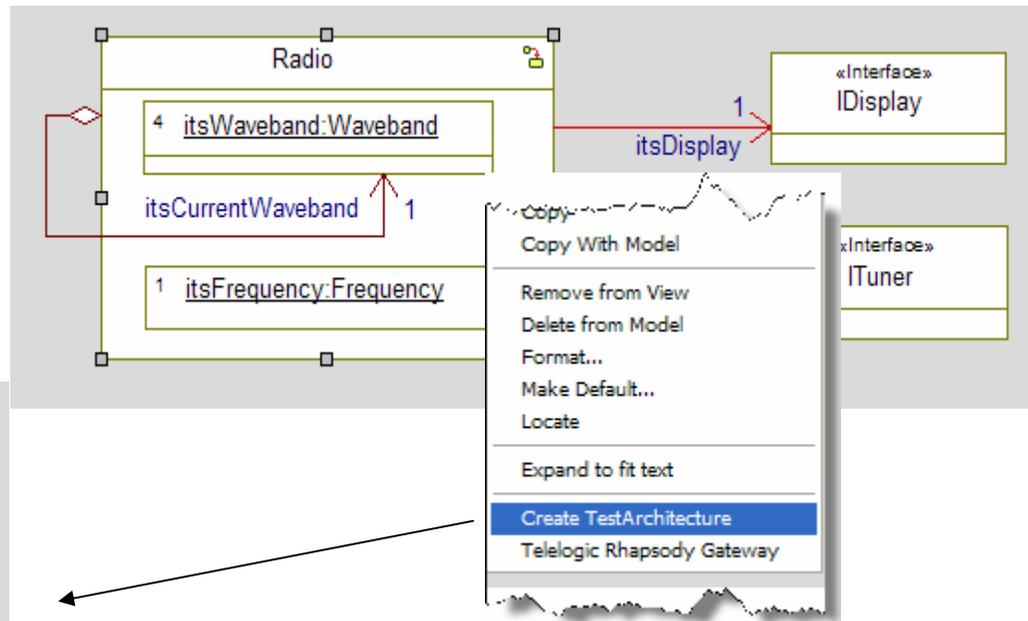
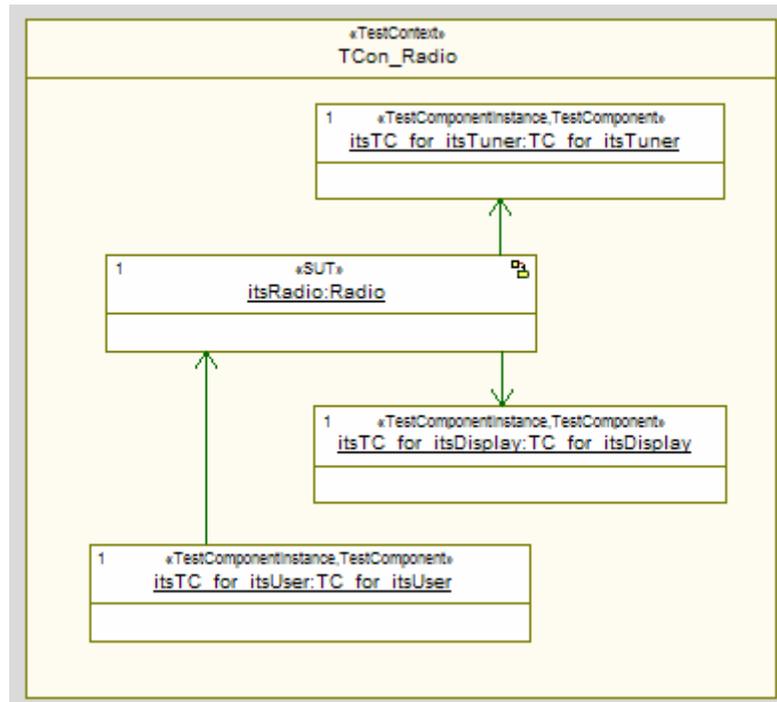
Environment Info	
Test executed on machine:	NBOSC-21-1
Test executed by user:	ubrockmeyer
Used OS version:	Windows 2000 / Windows XP
Used Rhapsody version:	Aries, build 799102
Used TestConductor version:	2.0, build 530

Tested Project	
Project:	CashRegister
Active Component:	TCon_CashRegister_5
Active Configuration:	DefaultConfig

Test Context: TCon_CashRegister	Summary: PASSED
tc_code	PASSED
tc_activity_diagram	PASSED
tc_adding_removing_products	PASSED
tc_regression_test	PASSED
atg_tc_008	PASSED
atg_tc_009	PASSED
atg_tc_006	PASSED
atg_tc_002	PASSED
atg_tc_003	PASSED
atg_tc_004	PASSED

グラフィカルにテストアーキテクチャを作成

- テストアーキテクチャは、コードベースのテストベンチのモデル
 - 自動生成される
 - モデルが更新されると更新される



- 生成されたアーキテクチャには、
 - テストケースはまだない
 - ただコンパイルできるだけ

モデル成果物のテスト

- モデルを設計したようにテストを設計する

```

int f;
int freq;
int testNum = 1;
char testName[50];

itsRadio.nextWaveband();

// Test MW 522KHz to 1620KHz step 9KHz
itsRadio.nextWaveband();
for ( freq=522; freq<=1620;
    sprintf ( testName, "CDW
    f = itsRadio.getItsCurre
    RTC_ASSERT_NAME(testName,
    testNum++;
    itsRadio.getItsCurrentWa
}
f = itsRadio.getItsCurrentWa
sprintf ( testName, "CDWhite
    RTC_ASSERT_NAME(testName, (f
    
```

コード

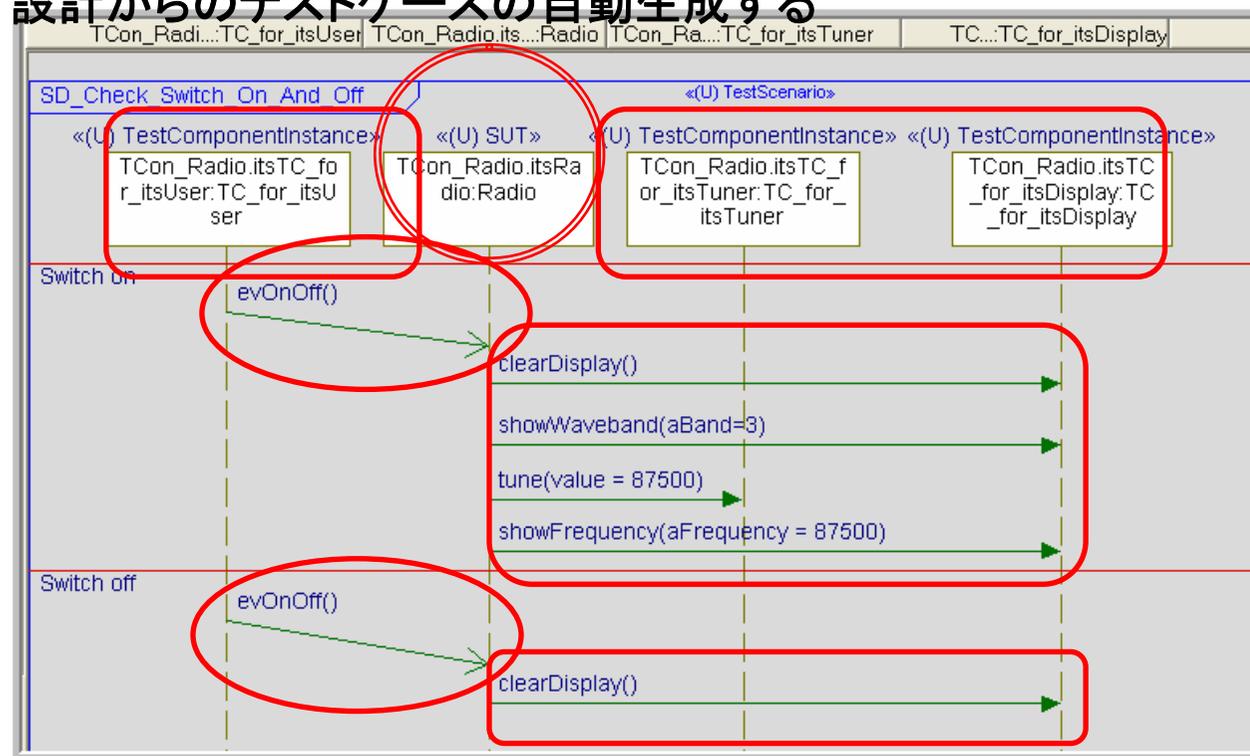
シーケンス図

フローチャート

- テストをデスクトップ上でもターゲット上でも実施する

シーケンス図でテストケースのふるまいを記述

- シーケンス図を、要求されたふるまいを記述するグラフィカルなテストスクリプトとして使用する
- リグレッションテストのテストケースとしてアニメーション化されたシーケンス図を記録し、再利用する。
- ATGを用い、設計からのテストケースの自動生成する



フローチャートやコードでテストケースのふるまいを記述



The image displays a screenshot of the Rational Rhapsody IDE. On the left, a flowchart titled "save to all presets" shows a sequence of four steps: "save_LW_presets", "save_MW_presets", "save_SW_presets", and "save_FM_Presets". A red arrow points from the first step to a larger window titled "FlowchartOfFCWhiteBox_007". This window contains C++ code for variable declarations:


```
const int lw[]={ 144, 190, 220, 250, 281 };
const int mw[]={ 522, 612, 657, 837, 1600 };
const int sw[]={ 5950, 9900, 13500, 13550, 15600 };
const int fm[]={ 87500, 90500, 100000, 100100, 108000 };
int testNum = 1;
int mem;
int freq=0;
char Wa;
Freq
```

 Below this, another window titled "FlowchartOfSave" shows a step labeled "mem+". To the right, a large window titled "Test Case : CDWhiteBox_006c in TCon_Radio *" shows the implementation code for the test case:


```
void CDWhiteBox_006c()
{
    // Check that when the radio is on SW, it can't be tuned outside the Short wave
    // frequency range. Also, make sure that as it is being tuned up, it wraps around
    // back to the lowest frequency.

    int f;
    int freq;
    int testNum = 1;
    char testName[50];

    itsRadio.nextWaveband();
    itsRadio.nextWaveband();

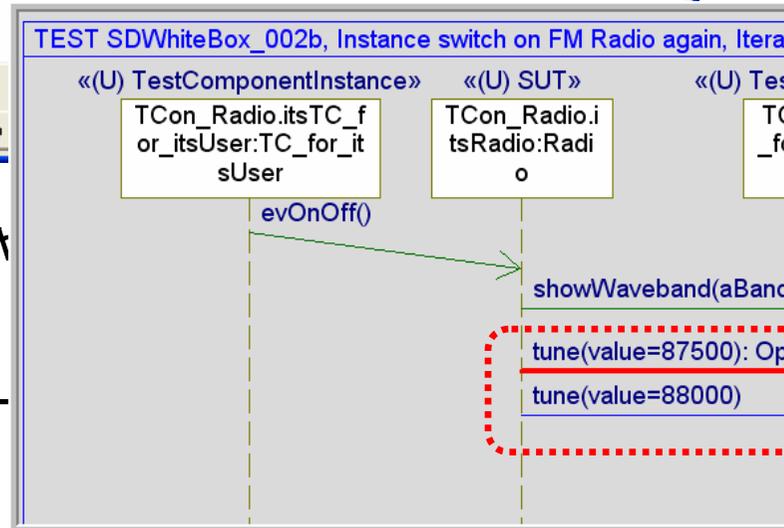
    // Test SW 5950KHz to 15600KHz step 50KHz
    itsRadio.nextWaveband();
    for ( freq=5950; freq<=15600; freq+=50 ) {
        sprintf ( testName, "CDWhiteBox_001c_%.03d", testNum );
        f = itsRadio.getItsCurrentWaveband()->getItsCurrentFrequency()->getValue();
        RTC_ASSERT_NAME(testName, (f==freq));
        testNum++;
        itsRadio.getItsCurrentWaveband()->getItsCurrentFrequency()->up();
    }
    f = itsRadio.getItsCurrentWaveband()->getItsCurrentFrequency()->getValue();
    sprintf ( testName, "CDWhiteBox_001c_%.03d", testNum );
    RTC_ASSERT_NAME(testName, (f==5950) );
}

```

 The code editor window has tabs for "General", "Description", "Implementation", "Arguments", "Relations", "Tags", and "Properties". At the bottom of the code editor, there are buttons for "Locate", "OK", and "Apply".

テスト実行とテストレポート

- テスト実行
- シミュレーション
- コードとフローチャート
- コードでテストケース
- テスト実行し、レポート作成
 - SUTへの入力とスタブのふるまいは自動で動作
 - 予期せぬふるまいはハイライトされる
 - テスト実行結果レポートは会社/プロジェクトの標準に適應するようにカスタマイズ可能



Test Case Result

Test Case: SD_BB_TST001
12:11:43, Friday, July 20, 2007

Environment Info	
Test executed on machine:	TEMPRANILLO
Test executed by user:	ukmari
Used OS version:	Windows 2000 / Windows XP
Used Rhapsody version:	7.1, build 893427
Used TestConductor version:	2.0, build 616

Tested Project	
Detailed Results	
SD instance 'check stopwatch initialisation'	
Iterations:	1
Status:	passed
Progress:	100% (1/1)
SD instance 'check stopwatch start'	
Iterations:	1
Status:	passed
Progress:	100% (8/8)
SD instance 'check stopwatch stop'	
Iterations:	1
Status:	passed
Progress:	100% (3/3)
SD instance 'check stopwatch restart'	
Iterations:	1
Status:	passed
Progress:	100% (7/7)
SD instance 'check stopwatch reset'	
Iterations:	1
Status:	passed
Progress:	100% (3/3)



まとめ:なぜモデル駆動テストिंग?

- 早期のフィーチャ駆動テストが手戻り防止に重要
 - ▶ 早期のテストは、エラーを後工程に広めてしまわないために重要
 - ▶ テストを何回でも繰り返せることが重要
 - ▶ デバッグしなければならない範囲を限定することが重要
 - ▶ 認可を得るために重要
- これまでのテストの困難さを解決
 - ▶ 入出力用のテストクラスやテスト用インフラを作る (i.e., Logger, Reporter, Executer)
 - ▶ ターゲットなしのテスト
 - ▶ 開発チームで一貫性を保つ
 - ▶ 開発スケジュールに合わせる
 - ▶ システムモデル設計時からテストする

定期健診と
予防が大切です!

手軽に検診
できることも重要
です



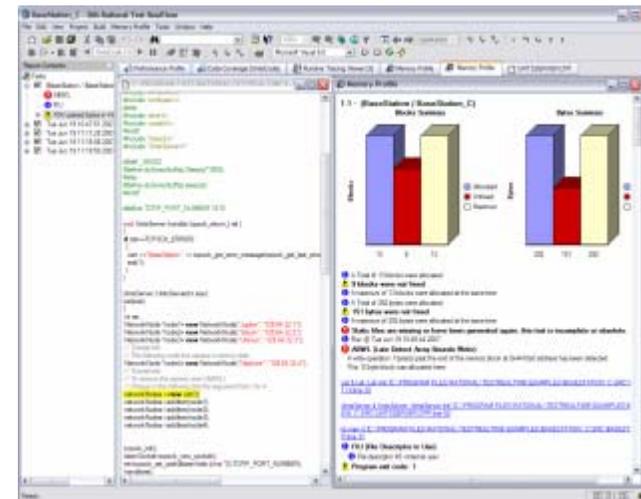
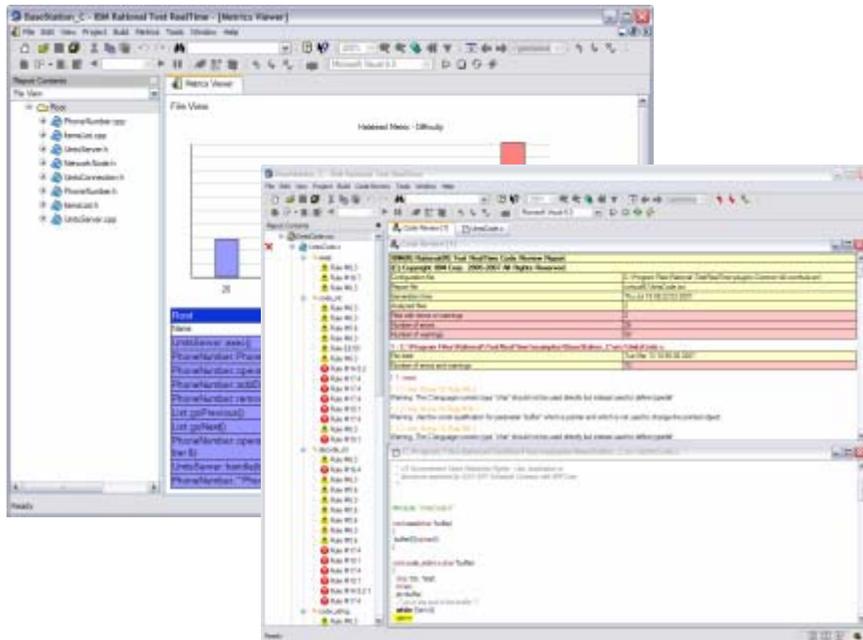
■ところで、コードのテストはしなくていいの？

- 全てのボタンを一緒に押したら、クラッシュしない？
- デッドコードはない？
- 全てのコードは一度は実行されたことがある？最初に実行するのがお客様だったりしないか？

Test RealTimeによる構造ベーステスト

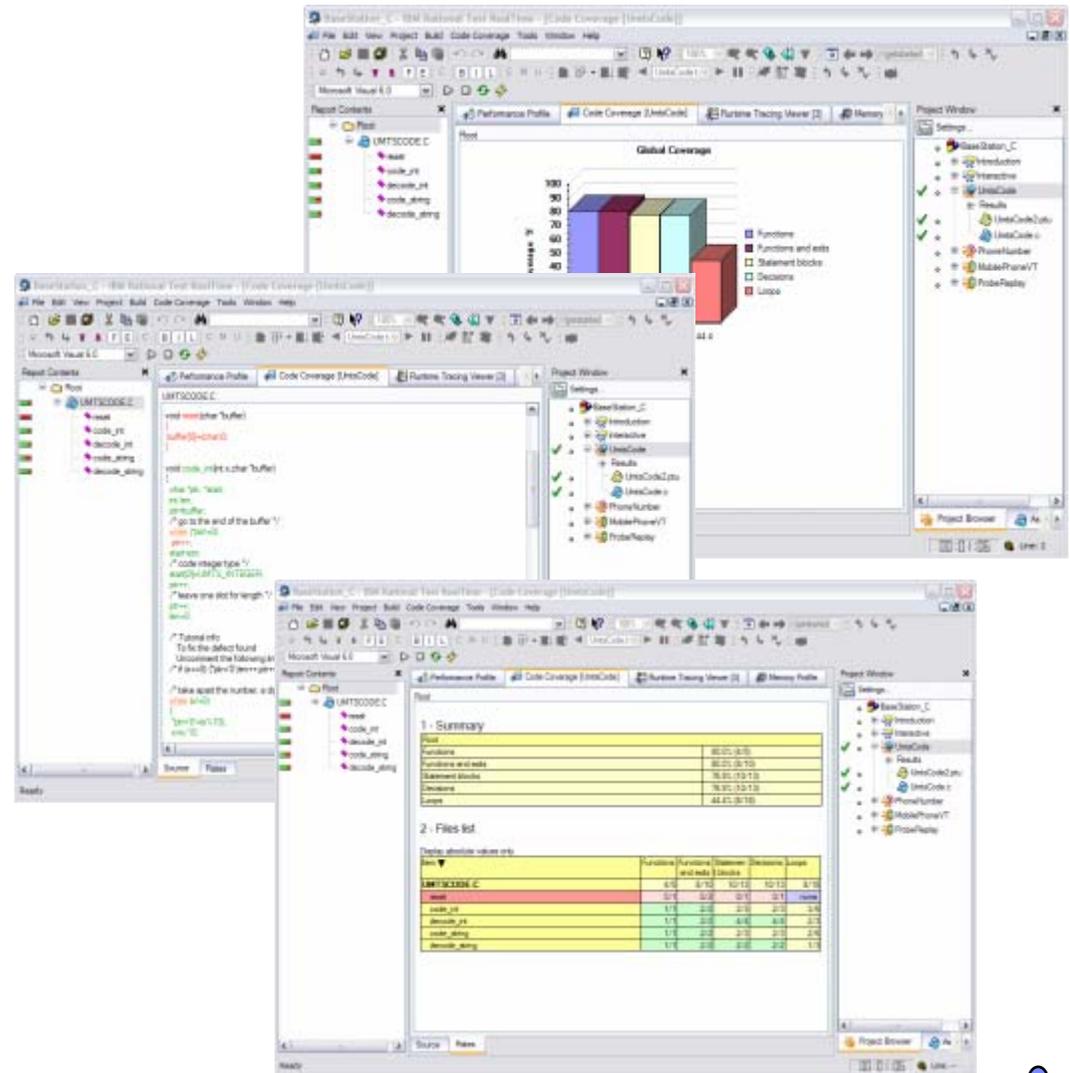
アプリケーションの品質を保証するためにコードを分析

- 静的分析
 - メトリクスレポート
 - MISRA-C:2004 コンプライアンスレビュー
- ランタイム分析
 - コードカバレッジ
 - メモリプロファイリング
 - パフォーマンスプロファイリング



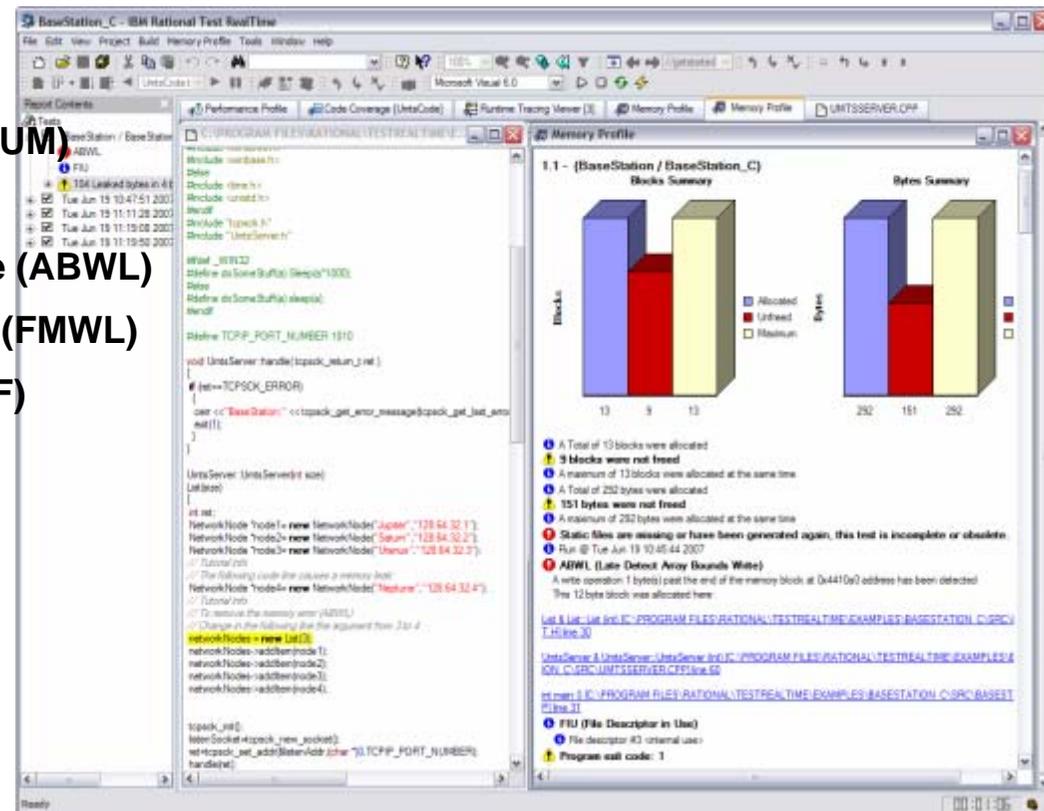
ランタイム分析:コードカバレッジ

- プログラム実行の内部を探る
- 使用されない かつ/または テストされなかったコードの特定
- C/C++ではMC/DC カバレッジレベル
- テストケースやコードと、全ての分析との直接相互関係



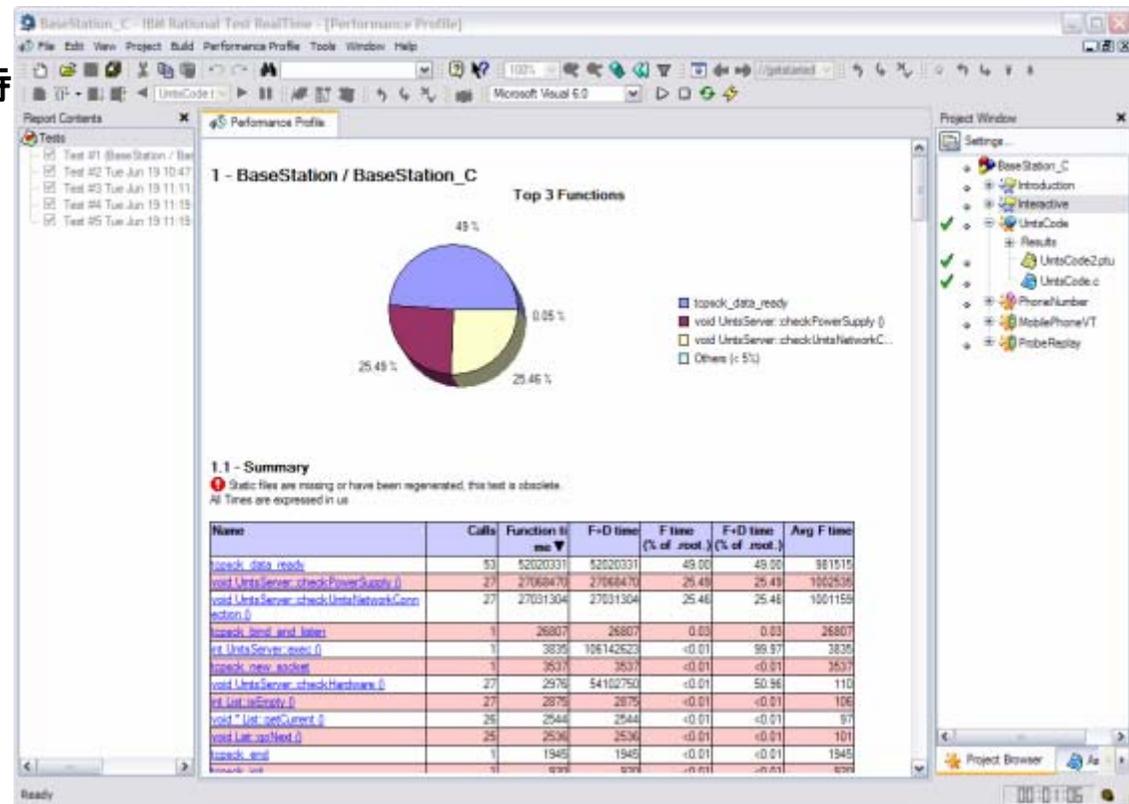
ランタイム分析: メモリプロファイリング

- 発見困難なメモリ問題を発見
 - エラーメッセージ
 - Freeing Freed Memory (FFM)
 - Freeing Unallocated Memory (FUM)
 - Freeing Invalid Memory (FIM)
 - Late Detect Array Bounds Write (ABWL)
 - Late Detect Free Memory Write (FMWL)
 - Memory Allocation Failure (MAF)
 - Core Dump (COR)
 - ワーニングメッセージ
 - Memory in Use (MIU)
 - Memory Leak (MLK)
 - Potential Memory Leak (MPK)
 - File in Use (FIU)
 - Signal Handled (SIG)
- テストケースやコードと、全ての分析とが直接相互関係



ランタイム分析: パフォーマンスプロファイリング

- アプリケーションのどの部分が実行時間を消費しているかをグラフィカルに表示
 - トップ関数グラフ
 - パフォーマンス概要レポート



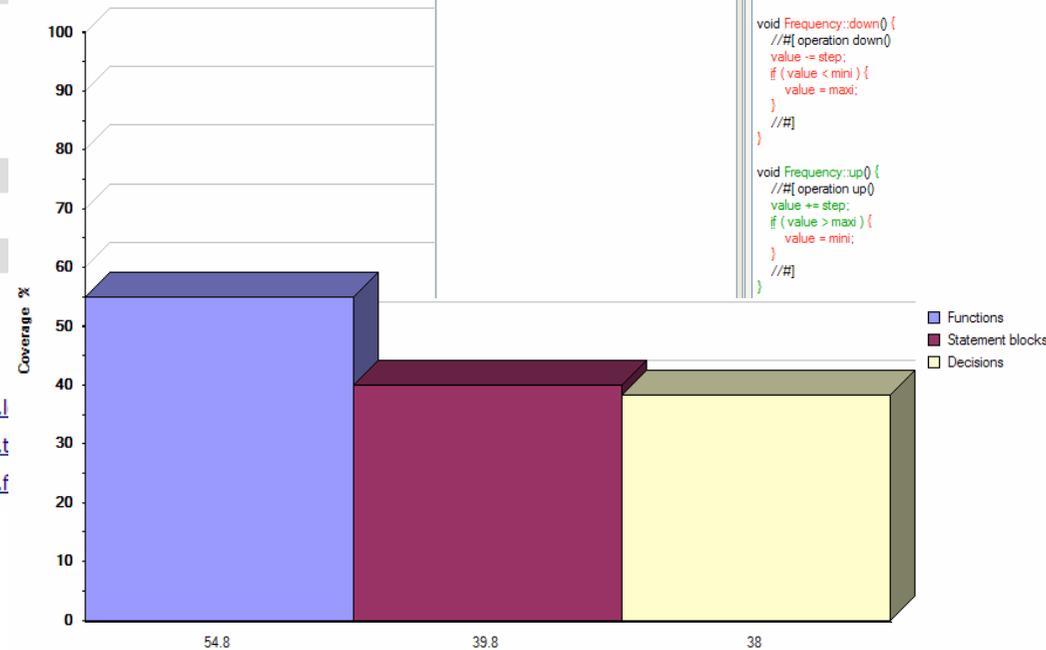
テスト結果、モデルカバレッジ、コードカバレッジ

- シミュレーション実行、ターゲット実行、それぞれから得られたテスト結果

SD	Iteration	Status	Progress
switch on FM Radio	1	PASSED	100% (5/5)
change from FM to LW	1	PASSED	100% (5/5)
tune to LW	1	PASSED	100% (3/3)
switch off LW Radio	1	PASSED	100% (3/3)
switch on LW Radio	1	FAILED	60% (3/5)
change from LW to MW	1	PASSED	100% (5/5)
tune to MW	1	PASSED	100% (3/3)
switch off MW Radio			
switch on MW Radio			
change from MW to SW			
tune to SW			
switch off SW Radio			
switch on SW Radio			
change from SW to FM			
tune to FM			
switch off FM Radio			
switch on FM Radio again			

Detailed Coverage Summary of Radio (15/41)

Operations	
not covered	nextWaveband
not covered	preset
not covered	retune
not covered	save
EventReceptions	
not covered	evFound
Statechart: StatechartOfRadio	
covered	ROOT.on
covered	ROOT.on.normal
covered	ROOT.on.normal.tuning
covered	ROOT.on.normal.tuning.l
covered	ROOT.on.normal.tuning.t
not covered	ROOT.on.normal.tuning.f



Report Contents

- Root
 - FREQUENCY.CPP
 - Frequency & Frequency::Frequen
 - void Frequency::configure (RhpP
 - void Frequency::copy (Frequency
 - void Frequency::down ()
 - void Frequency::up ()
 - RhpPositive Frequency::getValue
 - void Frequency::setValue (RhpPc
 - RADIO.CPP
 - RADIO.H
 - WAVEBAND.CPP

```

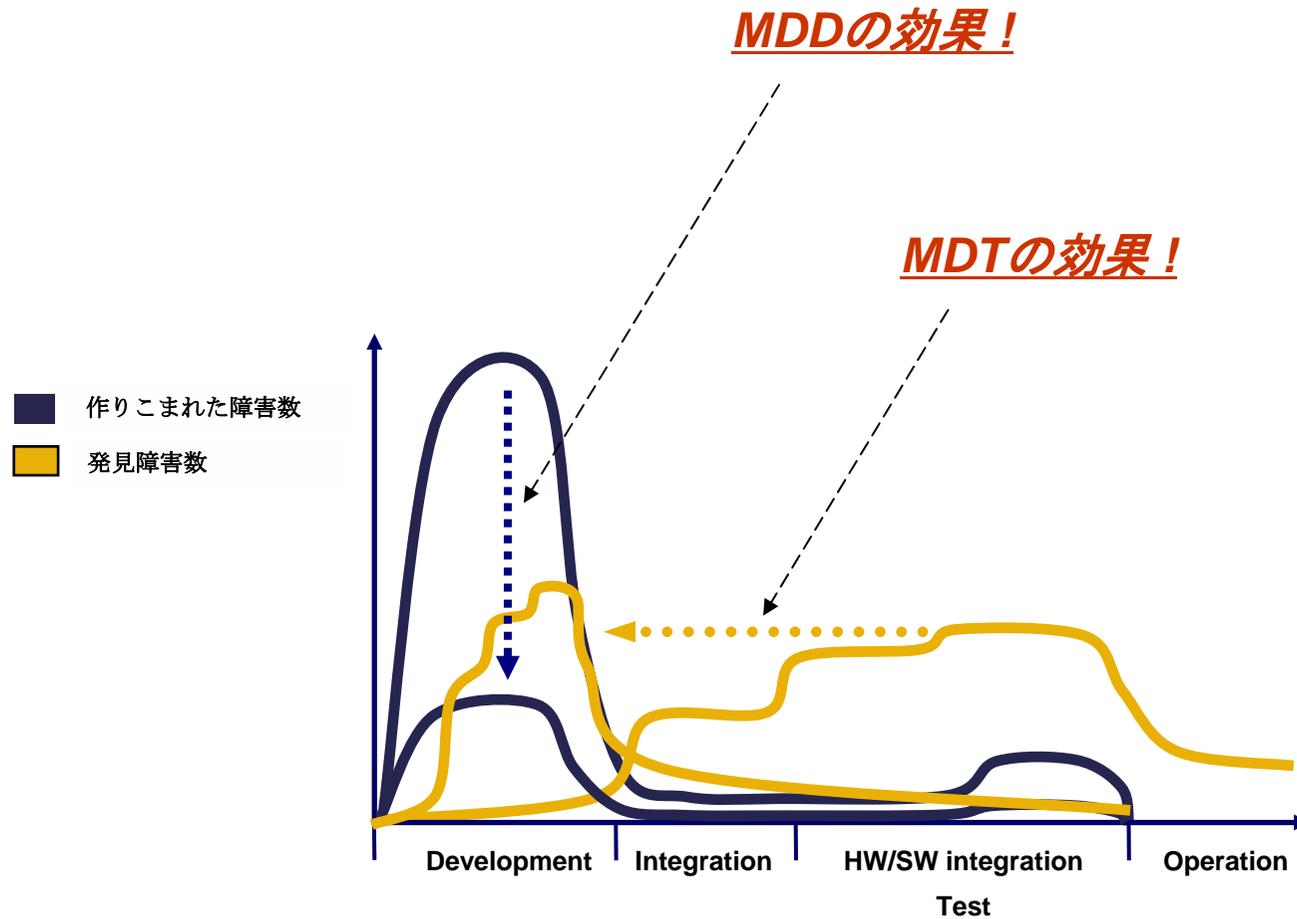
FREQUENCY.CPP
mini = aMinFreq / STEP_VALUE;
maxi = aMaxFreq / STEP_VALUE;
step = aStepFreq / STEP_VALUE;
value = mini;
}

void Frequency::copy(Frequency* aFreq) {
    //#[ operation copy(Frequency)
    value = aFreq->value;
    mini = aFreq->mini;
    maxi = aFreq->maxi;
    step = aFreq->step;
}

void Frequency::down() {
    //#[ operation down()
    value -= step;
    if (value < mini) {
        value = maxi;
    }
}

void Frequency::up() {
    //#[ operation up()
    value += step;
    if (value > maxi) {
        value = mini;
    }
}
    
```

まとめ – MDD & MDTと障害の経済学



まとめ

- MDD、MDTは、すでに実行可能、実用段階です
- MDDによって
 - 「あまりに多くの欠陥が作りこまれている」→「欠陥の作りこみ」が減少します
- MDTによって
 - 「欠陥が発見された時点では遅すぎる」→開発初期に欠陥を除去可能です
 - MDDによる開発プロセスをより効率的にする効果があります
- Telelogic Rhapsodyによって、
 - 要求、設計、テストなど開発に必要な各モデルが有機的に連携・組織化されます
 - 実行可能モデルによるシミュレーションがMDDを強く推進します
 - テストアーキテクチャの自動生成、テストの自動実行がMDTを強く推進します
- Telelogic Rhapsody – Test Realtime連携によって
 - 設計の妥当性と正当性が共に検証可能となります
 - 「本当に「正しいフィーチャ」を正しく開発しました/していますか？」

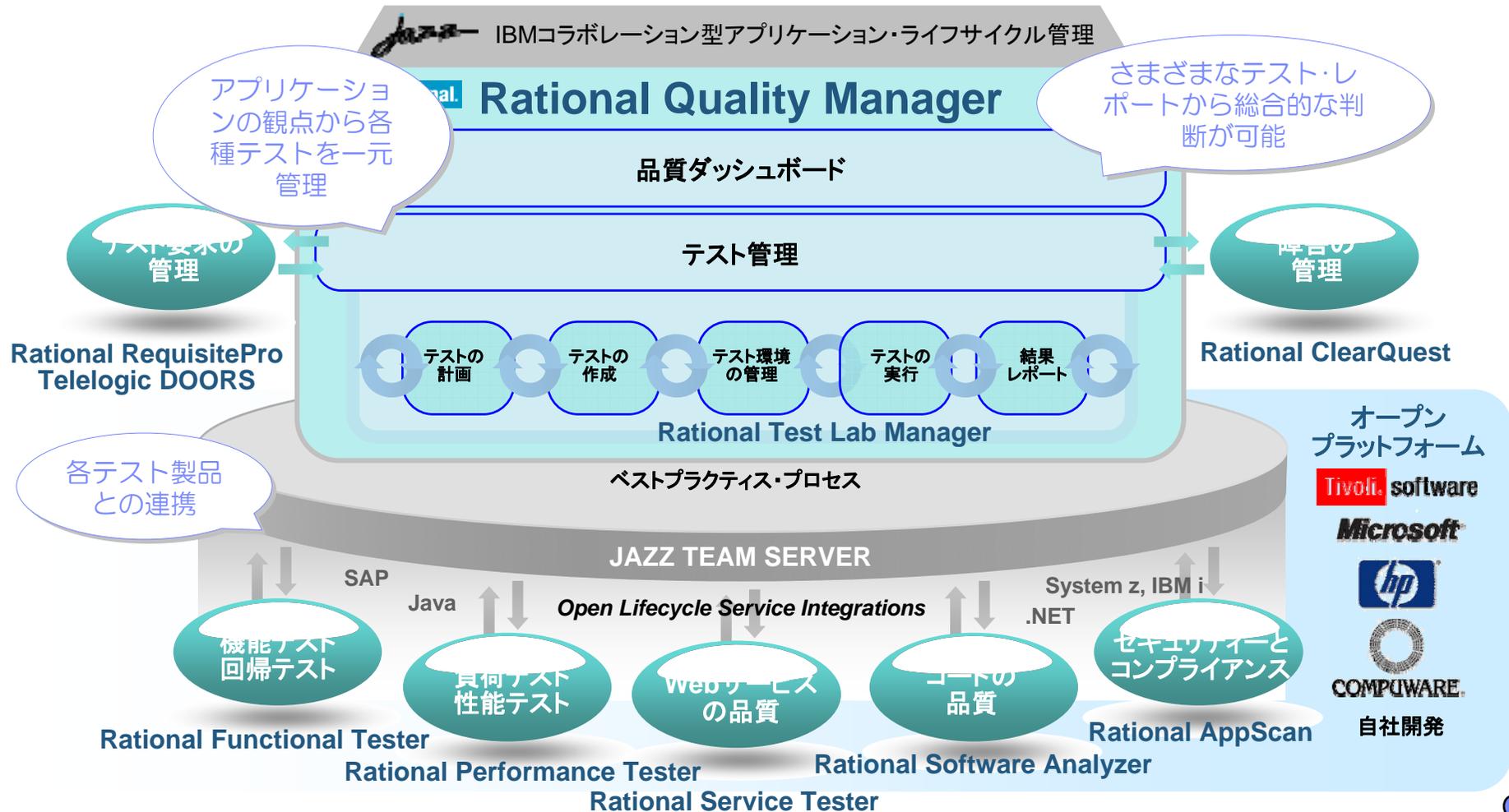


IBMのトータルテストソリューションについて



Rational トータル・テスト管理ソリューション

あらゆる種類のテストとテスト・プラットフォームを、ライフサイクル全体にわたってサポートする



品質ダッシュボード

My Tasks

Newly Assigned (3 Items)

- Verify Build Verification test
- Review Properties Test Case
- Create GUI Install Test Plan

Today (3 Items)

- Complete Project ABC Test Plan
- Review Properties Test Case
- Complete GUI Install Test Plan

Future (1 Item)

- Review Lab Quality Test

Team Load

Team Member	Assigned	Complete	Status
Katie Testlead	20	10	Behind
Ted Tester	13	10	On Time
Terry Tester	15	10	Behind
Uma Requester	21	16	On Time

Overall Progress

Test Case Points vs Time (Jan 01 to Feb 26)

- Projected Complete
- Projected Attempted
- Actual Complete
- Actual Attempted

Event Log

Event	Time
Build 0986 has successfully finished	30 min ago
Machine 0892-x2 has been reserved	1 h 20 min ago
Build 0985 is ready	5 h ago
Build 0984 is ready	10 h ago
Machine 098-Linux has been reserved	Yesterday, 10:00 PM
Build 0983 encountered errors	Nov. 12, 1:20 PM
Build 09261 is ready	Nov. 10, 10:00 AM
Reservation expired for Machine Sierra	Nov. 5, 1:00 PM
Build 98142 encountered errors	Nov. 5, 10:00 AM

Milestone

Project ABC Milestone 4 Start: Nov. 15, 2007 Target End: Dec. 31, 2007

Status: Behind

新しく
割り当てられた
タスク

本日の
作業

イベントログ
(自動テスト
の結果
レビュー
ステータス
など)

個人ごとの進捗状況
(テストケース消化率)

チーム全体の
進捗状況
(テストケース数の
予定と実績)

マイルストーン
の達成状況



IBM Rational SaaS型 テスト・ソリューション

SaaS型テスト・ソリューションのメリット

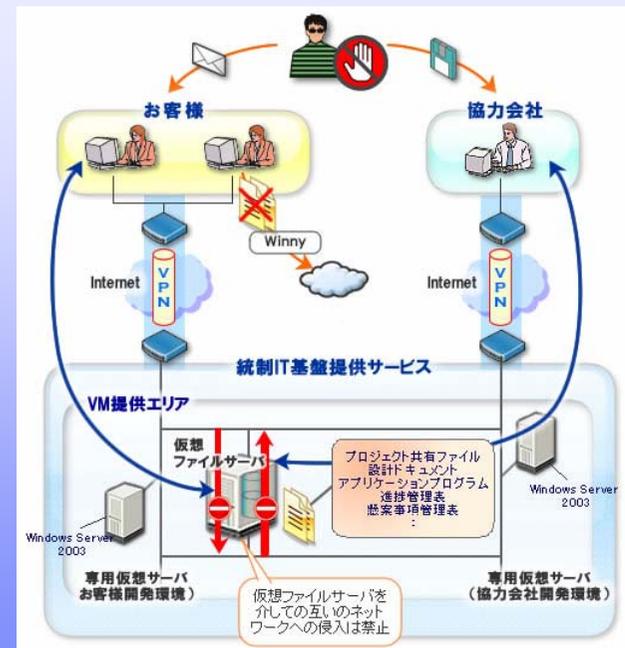
1. 比較的すぐ使える (H/W、S/Wのセットアップを簡素化)
 2. すきな期間 使える
- ↓
3. コスト削減

ビジネス・パートナー・ソリューション
(株)ライトウェル: 負荷テスト支援サービス

The screenshot shows a Gantt chart with columns for months from January to December. Red bars indicate the duration of various tasks, such as 'Rational Performance Tester 負荷テスト支援サービス' and 'Rational Performance Tester 負荷テスト支援サービス (RPT) 負荷テスト'.

負荷テストそのものを支援します

ビジネス・パートナー・ソリューション
日立ソフト(株): Secure Online



仮想マシン上で機能テスト、負荷テスト・ツールのご利用が可能となります

ありがとうございました

hisashi@jp.ibm.com

